

麻布大フィールドワークセンター開設記念座談会

大学と美郷町結ぶ拠点誕生

麻布大(神奈川県相模原市)の教育研究拠点「フィールドワークセンター」が1日、島根県美郷町粕淵に開設された。同大初のサテライト施設で学生や研究者が滞在しながら動植物の生態や食品、環境などの教育、研究を行う。麻布大の浅利昌男学長、美郷町の嘉戸隆町長に、山陰中央新報社の松尾倫男社長がセンター開設の意義や将来展望などを聞いた。

松尾 倫男氏
山陰中央新報社社長



嘉戸 隆氏
美郷町長



浅利 昌男氏
麻布大学長



麻布大フィールドワークセンターの看板を除幕し、開設を祝う(左から)嘉戸隆美郷町長、浅利昌男麻布大学長、丸山達也島根県知事、佐竹一夫美郷町議会議長、島根県美郷町粕淵

浅利 獣医師輩出数 大学トップ

麻布大の紹介

松尾 麻布大は日本の獣医学部では2番目に長い歴史を誇ります。浅利 1890年に東京市麻布区(当時)に創設された東京獣医講習所が前身です。1950年に麻布獣医科として開学し、80年に麻布大に改称しました。長く獣医師養成教育一筋で続け、獣医師の輩出数は日本の大学でトップです。松尾 現在は獣医学部と生命・環境科学部の2学部5学科があります。浅利 公舎が社会問題となっていた65年に、人間の健康維持・向上を目的に公衆衛生を専門的に学ぶ麻布公衆衛生短大が開学しました。これが生命・環境科学部のルーツで、美郷町に開設したフィールドワークセンター



麻布大本部キャンパス 神奈川県相模原市

関するフィールドワークの支援拠点として美郷町の役に立ちたいです。松尾 フィールドワークは食料の加工技術教育や食品衛生管理の国際基準「HACCP(ハサップ)」の研究などに高いレベルで取り組んでいます。浅利 キャンパス周辺は住宅地で近くに山野は長年研究してきた特色を根(神奈川県)の山に出

掛けるフィールドワークしてこられた。自然や生物を好む学生が多く集まる大学なので今回、学生の期待に応えられます。自然豊かな環境で育つ美郷町に、安心して送り出せるようにしたいです。浅利 3月24日のフィールドワークセンター開設式で町を挙げて歓迎していただきました。麻布大第2のキャンパスとしての思いを込め、私はセンターを麻布大美郷パレキーと呼びたいと思います。

美郷町と麻布大の縁

松尾 美郷町と麻布大は20年を超える交流があります。その中で学生と交流する機会が多くなりました。嘉戸 2000年に、ある研究室の鳥獣害調査を当時の邑智町が受け入れたのが最初の縁でした。以降、研究者や学生が町に長期滞在して研究を進めてきました。紡

嘉戸 技術や人集う「パレ」に 浅利 生活習慣調べ長寿を解析

美郷町の取り組み

松尾 美郷町は鳥獣害対策に取り組む産官学民が集う「美郷パレ」構想を取り組んでいます。嘉戸 米国のシリコンパレは世界最先端の企業が集まる最新技術や情報、人脈が手に入ります。美郷町を鳥獣害対策のヒト・モノ・カネ・情報が集まる場にしたと思

浅利 実践的な人材育てていく 嘉戸 大学進出を町の活性化へ

将来展望

松尾 美郷パレには現在、11の企業、自治体、団体が参画し、麻布大も加わっています。嘉戸 大企業や鳥獣害対策に特化した企業など、特色ある事業体が参画しています。町は2月に、美郷パレの中心役割を担う町組織「おおち山くら研究所」を立ち上げました。参画事業体の連携強化、地域活性化に向けた取り組みを強化します。島根県も麻布大の進出に期待し、県と県を通じた県内事業者の連携も図ります。例え

自然もさることながら、環境を生かしながら営みを続けてきた町民がいます。学生は町民から学ぶことも多いのではないのでしょうか。浅利 美郷町の自然や人々の暮らしは「まの山」のようです。フィールドワークセンターで、建学の精神である実践的な人材を育てます。学生を送り出します。町民のみならず、ようこそお越しください。松尾 大学進出という好機をまちづくりにどう活かしますか。



町内で研究活動をする麻布大生。島根県美郷町

自然豊かな美郷町で 地域とともに学ぶ

麻布大学 生命・環境科学部の附属施設「フィールドワークセンター」は、島根県美郷町と連携して、人・動物・環境の共生をめざす教育・研究を行います。

島根県 邑智郡 美郷町

麻布大学 生命・環境科学部 附属施設 フィールドワークセンター

麻布大学初のサテライト施設です。美郷町と麻布大学は、長年の交流から2019年3月に包括連携協定を結びました。美郷町では、イノシシを「おおち山くら」と名付けてブランド化し、まちづくりにかかっています。

神奈川県 相模原市

麻布大学 キャンパス

獣医学部(獣医学科、動物応用科学科) 生命・環境科学部(臨床検査技術学科、食品生命科学科、環境科学科)の2学部5学科があります。2020年に、創立130周年を迎えた歴史ある私立大学です。



https://www.azabu-u.ac.jp/

島根県 美郷町

MISATO TOWN SHIMANE
https://www.town.shimane-misato.lg.jp/
電話 0855(75)1211 FAX 0855(75)1218



高校はないけど大学のある町

動物学・自然環境学大学として長い歴史を持つ麻布大学(神奈川県相模原市)が2021年4月に教育研究拠点「麻布大学フィールドワークセンター」を設置しました。2009年に県立邑智高校が閉校になりましたが、県内初の私立大学進出により「高校はないけど大学のある町」になりました。

水上のF1スポーツ「カヌー」

1. 県内唯一の特色ある部活動 邑智中学校は県内唯一のカヌー部があり、中国地方最大級の級河川「江の川」で多くの子供たちが練習しています。 2. 第84回国民スポーツ大会カヌー会場に決定 2030年開催予定の国民スポーツ大会島根県大会のカヌー競技会場に決定。カヌーの特設コースがあり、中学生や隣の島根中央高校カヌー部も練習しています。

「美郷パレ」に集う産官学民

「鳥獣対策版シリコンパレ」を目指して 鳥獣害対策版シリコンパレを目指す「美郷パレ」構想を推進しています。美郷町に行けば、鳥獣害対策、住民の取り組みに関し「新たな情報や技術が入り、人脈が広がる」町として、全国から産官学民が集い新たな地域活性化の潮流が生まれています。

ゼロカーボンシティ先進地宣言

美郷町のカーボンニュートラル現在地「2050年」
1. 太陽光発電 CO2削減量 ▲420t/年 (※主要施設は、CO2排出量約8割削減) 庁舎等の主要施設・主要避難所に太陽光発電・蓄電設備を整備し、災害時電源も確保。
2. 電気自動車の普及 CO2削減量 ▲1.8t/台・年 公用車のEV車化、町民のEV車普及の推進(購入助成)。また、災害時は、「動く電源」として避難所電源に活用(災害時協定)
3. ドローンの活用 CO2削減量 ▲1.2t/台・年→物流網構築で更に削減量拡大 ドローンによる町内物流網構築の実証実験を実施。2023年の町内主要施設を結ぶ運搬開始を目指す。農業用ドローンでの作業も実施。
4. 豊かな自然環境・水力発電等によるCO2回収量 ▲211,000t ※町内CO2発生量 44,700tに対しCO2削減量 211,000t、既にカーボンニュートラル実質達成済み 数値は推計